

「自助」が難しい私のお願いです

無職

(山口県 69)

認知症の母と難病の妻を自宅です
年間、一人で介護しました。2人と
も半年の間に突然他界し、私の人生
は奈落の底の悲しみとわびしい年金
生活に落ち込みました。今の年収は
100万円に届きません。料金引き
下げが話題になっている携帯電話
も、お金がなく手放しました。

この貧困の苦しきの方が、新型コ
ロナの恐怖よりはるかに大きいと痛
切に感じています。でも、大切な母
と最愛の妻が相次いで亡くなる姿を
間近で見たので、死に対する恐怖や
不安は、私自身、全くありません。

貧困のため、持病の通院はずっと
控えています。いつでも故人の元に行けるように、身辺整理も終わらせました。生き恥をさらすようですが、これが現実です。

新内閣には、極貧者のために行動
していただきたいと思えます。生活
保護の受給基準をもっと緩やかに、
そして、枠を今より大きく。「自助
・共助・公助」について、新総理は
「まずは自助」と言い出されまし
た。でも、私のようにひとりぼっち
の人間は「自助」が困難なのです。
公助の大切さを考え直し、自助より
公助を優先する政策を早く実行して
いただきたいと願う毎日です。